

シリーズ 6

「グループで聖書を読むということ」

伝道・牧会の現場でグループ聖書研究はどのように用いられているのでしょうか。山形の地で、教会全体として手引を使って学び合っている教会をご紹介します。

地域ごとの聖研で、中高生もお年寄りも、幅広い年齢層の方々が一緒に学び合っているところがユニークです。毎週、同じ地域から教会に集い、共に礼拝を捧げていても、なかなかお互いのことを知り合えないものです。このような学び合いは、教会が共同体として助け合っていく上での下地作りになりそうです。

* * * * *

聖書研究会の恵み

山形第一聖書バプテスト教会
牧師 紺野真和

私たちの教会は毎月第二水曜日を地区集会と位置づけしています。地区集会とは地区別祈祷会のようなもので、会員がご家庭を開放してくださり、主にその近くに住んでいる方々が老若男女関わりなく集まって（小さい幼子子どもや中高生が集まっているところもあります）共に聖書を学び、祈り、交わります。現在15の地区で行っています。学びの時にグループ聖書研究のために作られた「聖書を読む会の手引き」を使っています。

昨年度は、教会の目標を「家族・友人をキリストの許へ」と掲げましたので、共に伝道聖研の手引きである「基礎の学び」を使って、お互いに福音の理解を深め、どのように福音を伝えていくのかということ学びました。現在、実際に「基礎の学び」を使って求道者と聖書の学びをしている方々もいます。今年度は、「神の人四人（アブラハム、ヨセフ、モーセ、ダビデ）」の手引きを使って、聖書

から信仰者の人生を学んでいます。

実際に聖書研究をしている皆さんから色々な感想が寄せられます。「手引きにある設問によって、みことばを考える事で、そのような意味だったのかと分かるようになりました。」とか、「他のクリスチャンの考えを聞くことを通して、理解が深められました。」とか、「自分の口で自分が受け止めたことを話すことを通して、自分自身の中で整理ができました。」などなど。また以前は「設問の意味が分からないところがあります。」と言われたこともありましたが、「何よりも聖書を読むことが大切ですから、その時は思い切ってその設問は飛ばしてください。」とお話ししました。その時から順調に進んでいるようです。

私は、聖書研究会はとても大切なものであると思っています。それは、聖書研究は、自らが聖書と向き合いみことばを考え、示されたことを発言するからです。一人一人がご聖霊に導かれて、みことばから教えられ、そして教えられたことを自分の頭でまとめて発言するということはとても大切な事です。どの分野でもそうでしょうが、人から教えられたことよりも、自分で学んだことの方が身につくでしょうから。以前、「解答集を作ってください。」と言われたこともありましたが（笑）。

聖書の学びの後、今日の個所で教えられたことを短く分かち合い、それぞれの近況を報告し、互いに執り成しの祈りをしています。

将来、私たちの教会の地区集会がどのように変化して行くのかは分かりませんが、一人一人が聖書に向き合って、ご聖霊に導かれて聖書を共に学び合うということは大切にしていきたいと考えています。